

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 「人間尊重」の精神を基盤とし、**豊かな心の陶冶，自主性と創造性の伸長，体力・気力の充実**を図り、心身ともに健康でたくましく生きる創造的実践力をもつ子供の育成を図る。
- (2) 具体目標（目指す子供像）
- 思いやりのある心豊かな子
 - 進んで学び創意工夫する子
 - 元気で明るくがんばる子
 - きまりを守り責任を果たす子
- 【合言葉】 元気なあいさつ（やる気） だれにも親切（思いやり） きれいな陽東（根気）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

〔学校経営のテーマ〕 「**楽しく，心豊かで，魅力ある学校づくり**」

学校は、子供たちが安心して学び合い、友達や教職員との関わりの中で伸びていける場である。また、教職員にとっては、その専門性を発揮しながら協働し、同僚性を培っていこうとする場であるという観点から本テーマを設定した。具体的には、どの子にも、どの職員にも居場所があり、一人一人のよさや可能性を互いの関わりの中で伸ばしていこうとする学校であり、保護者・地域との関わりを大切にして、信頼と協力で結ばれた学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) **組織的に機能する学校**
- ・学校が組織的に機能するよう、「学校マネジメントシステム」や「教職員評価制度」等を活用し、様々な立場からの経営参画意識を高めるとともに、教職員それぞれの個性や能力を発揮した職務が遂行されるようにすることで学校力の一層の向上を図る。
 - ・「子供の健康・安全の充実はすべての教育活動に優先する。」ということを第一に考え、安全な学校環境の整備に努めるとともに、食物アレルギーや感染症等への確実な対応を徹底する。
 - ・特別支援教育の考え方や方法を生かし、個に応じた支援ができるように努める。
- (2) **知・徳・体の調和のとれた「成長し続けるための基盤を培う」教育の実践**
- ・基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む。
 - ・全ての学習を支える情報活用能力を身に付けるためのツールとして、1人1台端末を効果的に活用するとともに、デジタルシティズンシップ教育を推進する。
 - ・心の教育の充実により、自信や自己有用感、たくましさ、規範意識、思いやりなど、豊かな心を育む。
 - ・生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。
- 地域学校園の教育ビジョンを踏まえ、小中一貫教育の推進に努める。
- (3) **教職員の資質・能力の向上**
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、指導力・授業力の向上を図る。
 - ・一人一人の学級経営力を高めるとともに、学年内の連携を図った指導を工夫する。
 - ・児童が「個別最適な学び」を進められるよう、学習内容の確実な定着を図る観点や、その理解を深め広げる学習を充実させる観点からカリキュラム・マネジメントの充実・強化を進める。
- (4) **○家庭・地域・社会と連携した社会に開かれた教育課程の実現**
- ・学校マネジメントシステムの公開や教育活動の広報を行うとともに、地域協議会や学校ボランティアとの連携を図る双方向型の活動の一層の充実を図る。
 - ・保護者、地域、社会とのかかわりを重視し、体験活動の充実等を図る。
- (5) **「働きがい」と「働きやすさ」を両立する働き方の推進**
- ・校務・事務の効率化と適正化のため、個々の業務の改善やICTの活用を推進する。
 - ・高い同僚性のもと、児童指導や学習指導の工夫改善が職員間で共有できるように努める。
 - ・教職員を目指すボランティアなどを積極的に受け入れ、魅力を体感してもらう。

〔陽東地域学校園教育ビジョン〕

地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

- 本校においては、改訂された学習指導要領及び上述した学校経営目標、理念、具体策を具現化するために、下記のような方針をもとに教育課程を編成し実施する。
- (1) 教科等横断的な視点を踏まえ、各教科等の関連を年間指導計画に位置付けるなどしながら、教育内容や時間の適切な配分に努める。
 - (2) 実施に当たっては随時その状況を評価し、児童の実態や社会的な状況等に合わせて改善を図ることを繰り返すものとする。
 - (3) 校内外の人的、物的資源や体制を最大限に活用し、児童への教育効果を高める内容とする。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ・「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」 (2) 学習指導 ・「自ら学ぶ意欲を育み、基礎・基本と活用する力を高める学習指導の充実」 (3) 児童生徒指導 ○「豊かな心を持ち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童・生徒の育成」 (4) 健康（体力・保健・食育・安全） ・「生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成」
--

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は，学習課題を解決するために，友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 基本的な学習態度・技能を身に付けさせるために，教師間での共通理解を図るとともに，児童に「学習の約束」を年度初めや学期初めに数回周知し指導に当たる。 ② 児童の考えを引き出し深める発問や板書を工夫し，自分の考えをもって学び合える学習活動を重視する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け，授業研究会や職員研修を実施し，指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.3%で，目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の思考を深めるような学習活動を工夫し，学び合いを重視した授業展開を継続していく。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学級経営の充実とともに，登校班での登校や縦割り班での休み時間の共遊，特別支援学級との交流等を充実させ，相手の立場を考えて思いやる心を育てる。 ② 体験と関連を図った道徳科の授業を通して，生命や人権を尊重する心や，人を思いやる心などを涵養する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.1%，教職員の肯定的回答は 100%で，それぞれ目標値を上回った。 ・昨年度と同様に異学年との交流を図る機会を多くとることができ，思いやりをもって生活できた。 【次年度の方針】 ・次年度も陽東フェスタなどの縦割り班活動における共遊・清掃活動の交流を継続し，思いやる心を深めていきたい。
	A3 児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう，児童相互に認め合う場を多く設けるとともに，担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において，児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに，目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において，目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに，実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 ・児童の達成状況は，91.1%で目標値を上回った。 ・持久走や清掃活動などの継続的な取り組みなどにより昨年度と同様に，目標をもって取り組む活動の機会を多くもてた。 【次年度の方針】 ・行事だけではなく，各教科の授業においても，目標を明確にし，児童が目標を意識して，毎時間取り組めるようにする。 ・目標達成までの過程を認め，励ます指導の充実を図る。 ・清掃活動の充実を図る。

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に関心を持ち、自ら健康に気を付けて生活できるよう、体育、学級活動等の教科を中心とし、児童会活動や学校行事と関連させながら、運動・保健指導、及び日常生活指導を行う。</p> <p>② 普段の給食指導とともに「お弁当の日」を親子で食事を考える機会として、児童の食への関心を高めて望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 自らの命を守る行動力を育成するため、日常における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100.0.%、保護者の肯定的回答は 90.9%で目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・長期休みなどによる家庭での運動への取組や、各種便りでの食事・健康に関する啓発・促進等を通して、児童の体力・健康への保護者の理解と協力を促す。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。</p> <p>② 道徳科の授業や特別活動において「個性の伸長」や「集団生活の充実」について考える学習を充実させる。</p> <p>③ キャリアパスポートや振り返りのワークシートを活用し、自分のよさや成長を実感できるようにする。教職員や保護者がコメントを書くことで価値付けを図る。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の達成状況は、92.3%で目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・ワークシートを活用し、行事の振り返りを充実させるなどして、自分のよさや成長を実感できるようにする。 ・道徳の授業の学校行事や児童会を意図的に関連させる。 ・児童の実態に合わせた道徳の授業を展開する。学級活動では係活動を充実させ、自分の考えを生かしたり、よさを発揮したりできるようにする。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 外国語活動（英語）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② ALTとの密な連携を行うとともに、外国語活動（英語）に関する校内研修などを実施し、教師の指導力や英語力の向上を図る。</p> <p>③ 授業における活動以外の場面でも英語でのコミュニケーションや指示を取り入れ、児童が「英語でのやり取りができた」と自覚して自己肯定感を高められるような声掛けをしていく。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、90.1%で目標値をやや上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業中の活動以外にちょっとしたコミュニケーションや指示にも英語を使用し、児童が「できた」と自覚して自己肯定感を高められるような声掛けを継続していく。 ・外国語活動の校内研修を実施し、指導力や英語力の向上を図る。 ・授業以外でも、ALT とのコミュニケーションの場を工夫する。</p>
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業において、教科書や副読本、映像資料等を活用したり、学習内容に関連させたりしながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。</p> <p>② 校外学習等を活用して、地域や市への体験的な活動を通して理解を深める。</p> <p>③ 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物、LRT等について理解を深めるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的解答は、87.6%で目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・宮っ子ランチやLRTを紹介するなど授業等で宇都宮の良さにふれる機会を引き続き設定していく。 ・5、6年は、総合的な学習の時間等で、さらに「宇都宮学」の学習を充実させたい。 ・宇都宮学の授業を授業参観などで実施し、啓発を図る。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童が、デジタル機器に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において積極的にデジタル機器を活用する。</p> <p>② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させ、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ 定期的な読み聞かせや読書の時間の設定などを通して、児童の読書意欲を喚起する。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 87.6%で、目標値を下回った。教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・ICT 支援員と連携し、教員の ICT に関する校内研修を行うなどして、授業へのより積極的な活用を促す。 ・学校図書館司書と連携し、学習内容と関連する図書資料を充実させるとともに、情報の選び方を児童に提示しながら、1人1台端末や本などの資料を学習する内容に応じて適切に活用できるようにする。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は『持続可能な社会』について、関心を持っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間における環境教育等を通して、体験活動を効果的に取り入れ環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。</p> <p>② 児童にとって身近な環境課題の解決に向け、委員会活動等で主体的な活動を支援する。</p> <p>③ 過去の災害の具体事例などから学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。</p>	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.3%、教職員の肯定的回答は 82.1%で、いずれも目標値を上回った。 ・総合的な学習の時間や社会科等の教科指導を通して、環境への関心が高まるよう指導した。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、総合的な学習の時間や社会科等の教科指導の中で、環境問題や防災について身近なこととして考えられるよう、体験活動や野外授業などの学習を充実させていく。 ・委員会活動や学級活動など実践的な活動を通して、周りに関わる意欲や行動力を育む。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。</p> <p>② ユニバーサルデザインを意識しながら、学校全体や教室環境を整備することで、どの児童にとっても過ごしやすい校舎、分かりやすい授業となるよう努める。</p> <p>③ 外国人児童の指導に関して、保護者や日本語指導者との連携を密にし、学校適応への支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 100%で目標値を上回った。 ・定期的に児童情報交換をしたり必要に応じて支援委員会等を開催したりできた。また日本語指導者との連携にも努めるなど個に応じた支援を組織的に行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・個別の支援計画を活用したり、情報交換をしたりして、学校全体で共通理解を図り、適切な支援ができるようにする。 ・ユニバーサルデザインを意識し、掲示物を工夫するなど環境整備を図るとともに、児童の実態把握に努め、指導法の研修などを通して分かりやすい授業展開ができるようにする。</p>

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが絶対に許されない行為であることを繰り返し指導する。</p> <p>② 児童会が主体となった、「いじめゼロ強調月間」の実施等を通して、いじめの起こらない環境づくりに努める。 また「いじめゼロ強調月間」での学校の取組をホームページ等で保護者及び地域住民に周知する。</p> <p>③ いじめの早期発見、早期対応のため、いじめアンケートを年間4回行う。(5・9・12・2月)</p> <p>④ いじめの早期発見や的確な児童理解のため、5、11月に全児童を対象に「教育相談」を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答は、96.9%で目標値を上回った。 ・いじめに関する校内研修会を実施したり、児童と一緒に人権について学ぶ機会を設定したりでき、学校全体で意識向上が図れた。 ・児童会主体でいじめゼロ強調月間を実施し、いじめについての考えを深めることができた。 ・いじめアンケートや教育相談から得た情報を校内で共有し、的確な支援や指導ができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組を同様に続け、いじめの早期発見と組織的対応を図っていく。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学級活動や学校行事等の特別活動の充実を図り、一人一人が活躍する場を設定する。</p> <p>② 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】</p> <p>③ 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る情報の共有を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答は 95.8%で、目標値を上回った。 ・児童会や各学年の行事において、児童が主体となる支援ができ、活躍の場が増えていた。 ・児童の言葉を活用した、親切や人権に関する掲示物を作成し児童の目が届く場に掲示できた。 ・学級経営に関する研修会を実施し、教育相談やアンケートを有効活用できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組を維持し、児童や保護者に寄り添った支援を図っていく。
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童が明るく充実した学校生活を送れるよう、諸活動をバランスよく配置する。</p> <p>② 特別活動において、児童の主體的な活動を重視するとともに、縦割り班活動を可能な範囲で実施する。</p> <p>③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答は 95.6%で、目標値を上回った。 ・音楽集会や縦割り班活動、運動会や各種体育大会など年間を通して、児童が活躍したり、意欲的に活動したりする場を確保できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の時間や内容、指導方針についてブラッシュアップを図りつつ、学校の明るい雰囲気が維持できるようにする。 ・児童指導や教育相談など様々な取組を活用し、職員での情報交換を密にしながら、チームとして児童に関わっていく。
<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>			

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授 業や児童にきめ細かな 指導を行い、学力向上 を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「先生方 の授業は、分かりやすく、 一人一人に丁寧に教えてく れる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童の意欲向上を意識した分かる 授業を目指し、授業研究会を行ったり 指導法について研修を行ったりす る。</p> <p>② 個に応じた指導の充実を図るた め、児童の実態を把握し、学習内容 に応じて少人数指導やT Tによる指 導等を取り入れるなど、学習形態を 工夫する。</p> <p>③ 1 人 1 台端末等の I C Tを活用 し、個別最適な学びの充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 97.8%で、目標 値を上回った。 ・本校の研究テーマに基づいた授業研 究会を実施することができた。また、 研究を進めることを通して、児童の学 力向上並びに教員の指導力向上につな がった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会や指導法についての研修 を行い、引き続き指導力の向上に努め る。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全 員がチームとなり、協 力して業務に取り組ん でいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に 関わる職員全員がチームと なり、協力して業務に取り 組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校図書館司書、かがやきルーム 指導員、ALT, SC, ICT 支援員等の 専門性を有する学校スタッフを含め た全ての教職員で、コミュニケーション を図りながら連絡調整を行い、 業務の推進に努める。</p> <p>② 学校の諸課題への対応や、学校行 事の準備・運営等に、教職員が相互 に助け合いながら「チーム陽東」と して取り組むよう努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 100%で、目 標値を大きく上回った。 ・普段から話しやすい雰囲気作りに努 めることで連携を図りやすくしたり、 積極的に打合せの時間を確保したりす るなど、協力して業務に取り組んだ。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の情報共有の機会を増やすた め、積極的に IT 等の情報伝達ツールを 活用しながら、様々な教職員が児童の 実態把握に努め、児童一人一人に関わ りやすくする。
<p>4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識し て、業務の効率化に取 り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、教 職員の勤務時間を意識し て、業務の効率化に取り組 んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 教職員の業務の負担軽減に向け て、学校支援ボランティア等の効果 的な活用をより一層図る。</p> <p>② 行事の精選を含め、業務のスリム 化に向けた取組を行っていく。</p> <p>③ 教職員一人一人が、勤務時間を意 識し、業務の効率的な実施や計画的 な処理に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 100%で、目 標値を上回った。 ・行事の精選をしたり、積極的に IT を 活用して情報共有を図ったりして、業 務の効率化に取り組めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターと密に連携を とりながらボランティアを積極的に活 用したり、行事や業務の精選を図った りしていく。
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫 教育・地域学校園」の 取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校 は、小学校と中学校が連携 した「小中一貫教育・地域 学校園」の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学校園のテーマを基に、分科会・ 教科部会等で重点化を図り、小中一 貫教育の推進に協働体制で取り組 む。</p> <p>② 学年だよりや学校だより、ホーム ページ等で、取組の状況を紹介する など、家庭や地域への広報活動を積 極的に行う。</p> <p>③ 地域学校園事務室や、各種分科会 等の活動を通して、学校園内の相互 支援体制を充実する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 78.1%で、目 標値を下回った。 ・地域学校園各教科部会、分科会等 により小中や地域学校園で連携を図 ることができたが、もう少し広報活 動に力を入れる必要があった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や文化祭など、小・中学生 が協力できる機会や、教職員の学校 行事への相互支援体制をさらに充実 していく。 ・学校ホームページや各種だより等 で保護者、地域への情報発信をさら に行っていく。

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 様々な企業や施設を訪問したり、出前授業を行ったりするとともに、地域の各種団体や宇都宮大学、学生ボランティアなどとの連携・協力による活動をさらに充実する。</p> <p>② 児童が人とかわりながら、体験的に学ぶ機会を充実させるため、地域コーディネーターを軸に、保護者や学校支援、学習支援ボランティア等の協力を得た授業を展開する。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.9%で、目標値を上回った。 ・学習支援ボランティアや宇都宮大学の教職ボランティア、別室登校支援ボランティアなど、さまざまな支援や施設・企業等による出前授業を効果的に活用することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・学習内容と関連する出前授業等の情報を得るとともに、地域コーディネーターの協力を積極的に仰ぐことで教育活動の充実を図る。 ・学校ホームページやたより等で、各活動の様子や児童の感想や変容などを発信することで、家庭・地域とさらに連携していけるようにする。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 毎月チェック項目に基づいて、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、安全点検を実施し、危険箇所については、迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入の不測の事態の備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症予防対策、感染症蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 90.4%、教職員の肯定的回答は 100.0%と、いずれも目標値を上回った。 ・安全点検を月に 1 回行い、その都度確認や修繕依頼等を行った。 ・危機管理マニュアルを整備し、全職員で共通した理解を図った。 ・養護教諭の衛生面への環境整備や職員・児童への周知、共通理解の共有などにより、熱中症対策や感染症の予防意識が校内で高まった。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、手洗い・うがいや消毒、換気など、感染症予防に向けた取組を進めていく。 ・月に 1 回の安全点検を行い、改善・修繕を行う。 ・避難訓練については、不測の事態に対する事前の指導を心がけ、繰り返し行っていくことで、児童に現実的な対応力を身に付けさせていく。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 情報教育主任を中心に、機器の操作を得意とする教職員が積極的に ICT 機器の活用を推進し、その有効性を教職員間に広めていく。</p> <p>② ICT 機器の活用について、ICT 支援員と連携して研修等を計画的に行うなど、学ぶ機会を設けていく。</p> <p>③ ICT 支援員との連携を図り、授業準備を計画的・組織的に行う。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を大きく上回った。 ・ICT 支援員を積極的に活用し、デジタル機器の活用に向けた取組を進めていく。</p> <p>【次年度の方針】 ・学習のねらいに迫れるように、ICT 支援員と連携を図り、デジタル機器の有効な活用法を探っていく。</p>

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 登校班長会議や一斉下校での日常的なあいさつ指導とともに、放送や広報、さらに計画集会委員会による「あいさつ運動」を実施する。生活目標の中にあいさつに関する目標を頻繁に入れて、意識を高める。</p> <p>② 地域学校園で設定した「あいさつの日」を設け、実施するとともに、保護者への啓発活動を行い、学校・家庭・地域が連携してあいさつへの意識を高めていく。</p> <p>③ 時と場に応じたあいさつについて、具体的な場面を想定して指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答は 90.5%であり、目標値をわずかに上回った。 ・あいさつ運動を実施し、生活目標にも定期的にあいさつに関する内容を盛り込むことができた。 ・地域学校園でのあいさつ運動の連携は、感染症対策により実施できなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校班長会議や一斉下校を活用し、全体へのあいさつ指導を行うとともに、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつへの意識をさらに高める。
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 規範意識や社会生活上のルールを尊重する態度を育てるため、「陽東小の児童の一日」を各教室に掲示し日常的に指導を行う。</p> <p>② 基本的な生活習慣を身につけさせるため、隔週で生活目標を設定し、児童指導主任を中心に全職員で指導を行う。</p> <p>③ 「陽東小の合言葉」をもとに、あいことば週間や自校表彰（陽東ピカイチ賞）を実施するなど、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的な回答は 92.3%で、目標値を上回った。 ・「児童の一日」を活用した指導や、生活目標の設定、職員の見回りが効果的に働いている。 ・児童同士でルールを守ろうとする声掛けが多く聞こえている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童の一日」について、現状に沿った内容となっているか確認をしつつ、現状の取組を維持していく。
	<p>B3 児童は、家庭においても自主的な学習や読書の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、家庭でも進んで読書をしたり家庭学習に取り組んだりしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の時間や内容、方法等に関するガイドラインを全職員で共有し、指導にあたる。</p> <p>② 家庭学習の記録を活用し、保護者と教師が連携して、児童を認め励まして継続できるようにする。</p> <p>③ 読書の記録を活用したり、各学年の必読図書を家庭に知らせたりする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答の割合は 84.1%で、目標値をやや下回った。 ・家庭学習の習慣化を図るために、宿題の出し方や自主学習のやり方を工夫してきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の種類や進め方について、学年に応じて提示し、家庭とも連携を図りながら児童が主体的に取り組めるようにしていく。 ・家庭学習の取組について可視化したり、教師が児童の頑張りを認め励ましたりすることで、児童の自己肯定感や達成感を高めるようにする。

<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B4 学校はあいことば「元気なあいさつ」【やる気】、「だれにも親切」【思いやり】、「きれいな陽東」【根気】を具現化する活動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、毎日の生活やあいことば週間などで「元気なあいさつ」「だれにも親切」「きれいな陽東」の実現に向けて進んで活動に取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 計画集会委員を中心としたあいことば週間「あいさつ運動」を行い、校内あいさつの活性化を図る。また、校外でのあいさつの状況を把握し、学級、登校班長会議、一斉下校などの機会を捉えて指導する。</p> <p>② 親切委員会によるあいことば週間「親切の花」の掲示を行い、全校で思いやりへの意識を高める。また、各クラスで友達の親切なところやすごいところをカードに書く「ありがとう・すごいねカード」に取り組ませる。</p> <p>③ 幼稚園・保育園との交流、縦割り班活動、地域の方との交流等、児童の主体的な活動を推進する。また、特別支援学級との交流及び共同学習や縦割り班活動を推進する。</p> <p>④ 道徳の授業やいじめゼロ集会などを充実させ、人権週間における啓発を行う。</p> <p>⑤ 環境美化委員会によるあいことば週間「清掃がんばり週間」、ふれあい班によるプランターの管理や栽培活動、除草活動、全校落ち葉清掃活動、PTA 奉仕作業、縦割り班清掃を推進し、環境・美化の意識を高める。</p> <p>⑥ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。① 計画集会委員を中心としたあいことば週間「あいさつ運動」を行い、校内あいさつの活性化を図る。また、校外でのあいさつの状況を把握し、学級、登校班長会議、一斉下校などの機会を捉えて指導する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答が 92.1%で、指標を上回った。 ・あいさつ運動が効果的に実施され、その様子を HP に掲載して周知することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで通り、効果的なあいさつ運動を実践し、取組の様子を学校内外で紹介していく。 ・親切委員会によるいじめゼロ運動・ありがとう・すごいねカードを充実させる。 ・環境美化委員会によるあいことば週間「清掃がんばり週間」、ふれあい班によるプランターの管理や栽培活動、除草活動、全校落ち葉清掃活動を推進し、環境・美化の意識を高める。
-------------------------------	---	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【教育活動全体の状況】

・評価項目 24 項目中、児童、教職員ともに 9 割以上の項目で肯定的な回答の割合が目標値を上回り、今年度の様々な教育活動が児童の健やかな成長のために効果をあげたと言える。特に児童の肯定的回答の割合は、昨年度と同じ 17 項目のうち 13 項目が昨年度より高く、ほぼ 9 割以上を示している。「陽東ピカイチ賞」等で児童のよさを認め励ましてきたことや、よさを認めていく指導方針が全職員で共通なものとして機能していたことの成果ではないかと考える。また、学校や地域の日々の生活に、児童が満足感を感じていることがうかがえる。

・組織的な学校運営の推進においては、「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」の経営テーマのもと、教職員評価制度やマネジメントシステムを有効に活用した。教職員アンケートでは「チームとして協力している」との回答が 100%に達し、校務の効率化や行事の精選といった働き方改革と、組織力の向上が両立された。

・安全・安心な教育環境の整備では、毎月の安全点検、危機管理マニュアルの徹底、養護教諭を中心とした保健指導により、児童が安全に生活できる環境を維持した。保護者からの肯定的な評価も 90%を超えており、学校への信頼感が高いことが示された。

【学習面】

・「分かる授業やきめ細かな指導」について、児童の肯定的回答は 97.8%で、指標を 7.8%上回った。確実な学力の定着と主体的な学びでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、発問や板書の工夫、本校の研究テーマに基づいた授業研究を重ねた結果、児童の 93.3%が「友達と協力し、必要な情報を集めて学習に取り組んでいる」と回答した。基礎・基本の習得と、それらを活用する思考力の双方が着実に育っている。今後も、教職員一人一人が授業力をいっそう高め、体験活動を充実させるなど、児童が意欲をもって熱中する授業を展開するよう努めたい。

・デジタル活用では、1人1台端末の活用は教職員側で 100%の積極的な活用が見られたが、児童が目的（調べる・まとめ

る等)に応じて資料を適切に使い分ける情報活用能力の育成には、課題が見られる。

・家庭学習と読書習慣については、家庭学習への肯定的回答は84.1%と目標値の85%をわずかに下回った。次年度は学習内容の可視化や、学年に応じた自主学習ガイドラインの提示を行い、家庭と連携した習慣化をさらに促進していきたい。

【生活面】

・豊かな心と規範意識の醸成では、道徳科の授業や縦割りふれあい班活動(陽東フェスタ等)を通じ、他者への思いやりや自己有用感の育成を図った。児童の9割以上が「思いやりの心を持って接している」と回答しており、良好な人間関係が構築されている。

・いじめ・不登校の未然防止では、年4回のアンケートと年2回の教育相談を軸に、早期発見・組織的対応を徹底した。初期段階で情報共有を図ることで、迅速な対応に繋がった。いじめ対策について、児童の肯定的な回答は指標を12%上回り、「先生は困ったときに相談に乗ってくれる」と実感している割合は97.5%と非常に高く、学校が安心できる居場所となっている。

・あいさつとルールへの定着では、「陽東小の児童の一日」等の掲示や生活目標の指導により、規律ある生活習慣が定着している。あいさつについても肯定的な回答が92.6%で昨年よりも高く、学校・家庭・地域の連携による意識付けが成果を上げている。

【本校の特色】

・「陽東小の合言葉」の具現化では、「元気なあいさつ(やる気)」「だれにも親切(思いやり)」「きれいな陽東(根気)」を軸とした活動(あいさつ運動、親切の花、清掃がんばり週間等)が定着している。保護者の肯定的回答は92.1%でこの活動を評価しており、本校独自の教育文化として根付いている。今後も、「陽東小の合言葉」を柱として教職員が指導し、児童自身も自覚をもって学校生活を送るとともに、保護者や地域の方々の協力を得ながら、児童の健やかな成長を地域全体で見守っていく陽東地域のよさを継続していきたい。

・地域と共に歩む社会に開かれた教育課程については、地域コーディネーターを通じた学習支援ボランティアや、宇都宮大学等の学生ボランティアの受け入れ、企業等による出前授業が活発に行われた。地域資源を最大限に活用した活動が本校の大きな強みとなっている。

○陽東地域学校園の連携強化については、小中一貫教育の視点から、分科会や教科部会を通じた連携を深めている。今後は、児童・生徒間の交流機会をさらに増やすとともに、地域学校園としての取組をより分かりやすく保護者へ広報することが、次年度の重点課題である。

7 学校関係者評価

【学校運営・マネジメントへの評価】

・市が指定する共通設問について、児童(特に低学年)の実態に合っているか、また地域学校園での取組など保護者が認知しにくい項目があるので、アンケート設問の再考が必要と感じた。数値の良し悪しに一喜一憂せず、その背景にある子供たちの実態や個性を丁寧に見てほしい。

【教職員の働き方改革】

データの集計や分析作業の負担増を懸念している。教員が本来の子どもと向き合う教育活動に集中できるよう、地域としても配慮が必要である。

【学習指導・ICT活用】

・勉強が好きという言葉一つにとっても、学問だけでなく遊びや生活から学ぶことの価値を大切にしてほしい。
・ICT活用の定着と課題については、タブレットを用いたレポート作成や共同学習が進んでいることを評価する一方、デジタル依存による「書く力」「思考力」「記憶力」の低下を懸念している。また、情報の適正利用についても、ネットリテラシーやフェイクニュースへの対応など、技術習得だけでなく、適切な使い方の指導を継続してほしい。

【児童指導・家庭教育との連携】

・いじめ問題やしつけに関し、学校に過度に依存するのではなく、本来は家庭でなされるべきと認識している。学校の指導に対し、地域・家庭が同じ方向を向いて協力する姿勢が重要である。そして、問題行動の背景には「自分を見てほしい」という承認欲求があることを理解し、子供たちを孤立させない地域ぐるみの見守りを継続する。

【交通安全・地域連携】

・道路交通法の改正に伴う自転車ヘルメット着用やルール変更について、学校・家庭・警察が連携した丁寧な指導を求める。大人が手本を示さないルールは子供も守らないので、交通ルールを含め、大人の背中を見せる教育が必要である。

・PTAやボランティアは、できる人ができる時に教育活動に参加する。顔の見える関係性が学校を支える基盤になる。

【地域活動】

・コロナ禍を経て、卒業式への全校参加やスポーツ大会等の地域行事が復活することはとても素晴らしい。デジタルでの効率化を進めつつも、顔を合わせる対面交流を大事にした活動を推進してほしい。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度は、経営テーマ「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」のもと、基礎・基本の確実な習得と活用する力の育成、学ぶ意欲の向上を目指し、1人1台端末を効果的に活用した授業改善に努め、「分かる授業」に対する児童の肯定的回答は97.8%と極めて高い成果を得た。特に本校の研究テーマに基づいた学び合いにより、9割以上の児童が主体的な学習態度を身に付けている。次年度は、ICT活用の習熟を図る一方で、学校関係者より指摘のあった「書く力」や「思考能力」の低下を防ぐため、アナログとデジタルのよさを組み合わせた指導を一層強化していく。また、目標に僅かに届かなかった家庭学習については、自主学習ガイドラインの提示等により家庭との連携を密にし、習慣化を促進していきたい。

・次年度も「いじめ防止」や不登校の未然防止に向けて、年4回のアンケート調査と、児童の97.5%が信頼を寄せる教育相談体制を軸とした早期対応を徹底していく。初期段階での組織的な情報共有を強みとし、児童にとって安心できる居場所としての学校づくりを推進する。さらに、保護者が認知しにくい「地域学校園」の取組等についても、ホームページの随時更新や各種たよりの発行を通じて積極的に情報発信を行い、学校の教育活動に対するさらなる理解と協力を得られる

よう努めていきたい。

・「陽東小のあいことば」を柱とした活動は、保護者の92.1%から高い支持を得ており、本校独自の教育文化として定着している。次年度も、あいさつ運動や清掃活動等を継続し、地域全体で子供を見守る陽東地域のよさを継承していく。特に交通安全やマナーについては、学校関係者評価で示された「大人の背中を見せる教育」を意識し、地域や関係機関と連携した丁寧な指導と、大人が手本を示す意識の醸成を図っていきたい。

・「陽東ピカイチ賞」の実施や、全職員による「よさを認め励ます」指導方針の共有により、児童が自己肯定感や満足感を感じながら学校生活を送ることができている。次年度も、児童の実態に合わせた学級経営の充実を図り、自分の言動を振り返る機会や互いの成長を認め合う場を設けることで、多様な個性を尊重し合い、児童が明るくいきいきと活動できる学校の雰囲気を維持・発展させていきたい。

・教職員の「チーム陽東」の協力体制を基盤とし、ICTの活用や行事の精選による働き方改革をさらに推し進めていく。

○地域連携においては「PTAやボランティアは、できる人ができる時に」という柔軟な姿勢を大切に、無理なく継続できる参画を促していく。このような顔の見える関係性を、学校を支える基盤とし、デジタルでの効率化を図りつつも、対面での交流や温かな人間関係を重んじた学校運営に努めていきたい。